

実績報告書の記入方法について

稼働した車両数×稼働日数
※車が稼働したかどうかは1日単位で判断する。
短時間の稼働でも1日車と算定する

提出期限 7月10日まで

3月31日現在の従業員数
(役員除く)

第4号様式(第2条関係)(日本工業規格A列4番)

区分	一般			特定
	特種	利用	霊柩	

事業者番号

空車+実車の走行距離

車両数×365日
(例①)1年増減がない場合
5台×365日=1,825
(例②)増車が6月1日に1台ある

貨物自動車運送事業実績報告書

荷物を積載して走行した距離

あて 住所
事業者名
代表者名
(役職名および氏名)
電話番号

自社の営業車両で輸送したトン

3月31日現在の車両数
(被けん引除く)

下請けに輸送させたトン

事業概要(年3月31日現在)

事業用自動車数	両	従業員数	人	運転者数	人
---------	---	------	---	------	---

税抜き価格

事業内容(前年4月1日から3月31日まで)

・ダンプによる土砂等輸送	・冷凍、冷蔵輸送
・基準緩和認定車両による長大物品等輸送	・原木、製材輸送
・国際海上コンテナ輸送	・引越輸送
・コンクリートミキサー車による生コンクリート輸送	・その他
・危険物等輸送	()

輸送実績(前年4月1日から3月31日まで)

	延実在車両数 (日車)	延実働車両数 (日車)	走行キロ (キロメートル)	実車キロ (キロメートル)	輸送トン数		営業収入 (千円)
					実運送(トン)	利用運送(トン)	
北海道							
東北							
北陸信越							
関東							
中部							
近畿							
中国							
四国							
九州							
沖縄							
全国計							

警察に通報した事故件数(加害、被害の合計件数)(人身、物損含む)

事故件数(前年4月1日から3月31日まで)

交通事故件数	重大事故件数	死者数	負傷者数
--------	--------	-----	------

- 備考 1. 区分の欄は、該当する事項を○で囲むこと。
2. 従業員数は、兼営事業がある場合は、主として当該事業に従事している人数及び共通部門に従事している従業員のうち当該事業分として適正な基準により配分した人数とし、運転者数を含むものとする。
3. 事業内容については、主なものを三項目以内を○で囲むこと。
4. 危険物等とは、自動車事故報告規則(昭和46年運輸省令第104号)別記様式の(注)の「積載危険物等」をいう。
5. 輸送実績については、地方運輸局の管轄区域ごとに、当該地方運輸局の管轄区域内にあるすべての営業所に配置されている事業用自動車の輸送実績(ただし、輸送トン数(利用運送)については、当該地方運輸局の管轄区域内にあるすべての営業所において行った貨物自動車利用運送に係る貨物取扱量)について記載すること。
6. 交通事故とは、道路交通法(昭和29年法律第105号)第72条1項の交通事故をいう。
7. 重大事故とは、自動車事故報告規則第2条の事故をいう。

運輸支局に事故報告書を提出した事故件

発生から24時間以内に死亡した人数

交通事故によって負傷し、治療した人数